

栽培品種の8割以上を占める本県の「やぶきた」の多くは耐用樹齢を過ぎており、改植を進める中で戦略的高生産性品種への転換を図っている。

特に本県の主要茶種である「かぶせ茶」は他県でも生産量が急増していることから、「やぶきた」に勝るかぶせ茶向き品種の導入による優位性の確立が急務である。「かぶせ茶」は被覆による高アミノ酸で緑色が濃く、かぶせ香の強いものが高品質とされる。「きらり31」はこれらの条件を満たすうえ、生育がよく、高収量が見込まれるため戦略的高生産性品種として、生産者や実需者と連携しながら普及に向けた技術確立支援を行う。

新品種・新技術等の概要

「きらり31」は宮崎県総合農業試験場茶業支場において、高品質と収量性を目標に平成6年に「さきみどり」×「さえみどり」を交配して得られた系統で、平成27年3月に品種登録された。三重県で「かぶせ茶」の評価を行った結果、従来の品種に比べ「外観」「収量」が勝り、またテアニン等のアミノ酸の含量が高く「味」でも優れていたことから、平成27年より伊勢茶戦略的品種として普及を進めている。本品種は、かぶせ茶だけではなく煎茶も優れ、また食品加工用抹茶としても有望で様々な場面での活用が見込まれる。



やぶきたとの比較(右:きらり31)

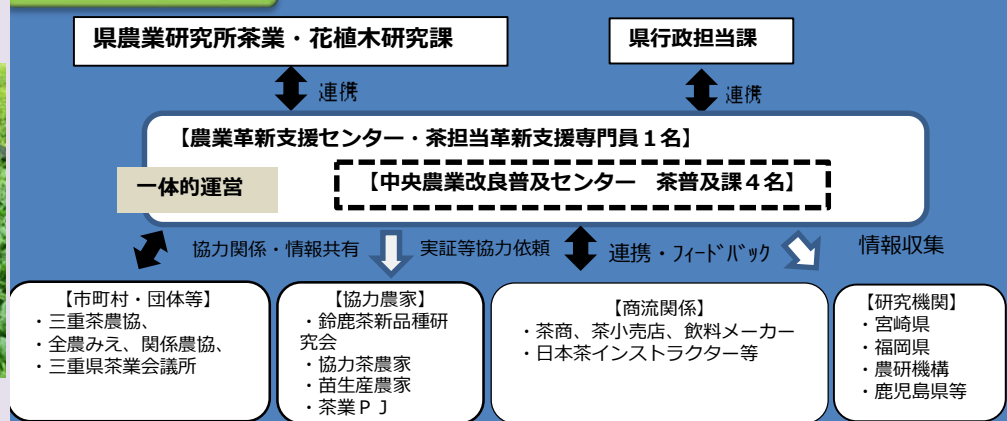
主な取組内容

- ・栽培調査と、製品の評価の結果、各地域で栽培に適し、市場性が見込めることから研修会や普及活動において導入を推進した。
- ・普及に向け品種利用許諾権を取得し苗生産を開始した。また試験研究と連携し栽培マニュアルを作成した。
- ・六次化に取り組む生産者向けに、粉末茶の菓子等へのレシピ研究および研修会を開催した。
- ・育成地の宮崎県、玉露での普及を進めている福岡県、苗生産の先進地の鹿児島県でベンチマーキングを行い普及活動に活かしている。



粉末茶を活用したシフォンケーキの開発

実施体制図



課題と今後の対応

- ・直床挿し1年生苗植え付け翌春に枝枯れの発生がみられるため、原因究明や対応策を検討する必要がある。
- ・初期成育の良い2年生苗やペーパーポット苗の増産取り組み。
- ・当該品種によるブランド化戦略が重要。

具体的な対応

- ・各地域での改植計画の樹立と合わせた苗生産を進めてゆく
- ・茶生産者、茶商関係者への周知活動を実施
- ・茶小売り業者、消費者に向けたPR
- ・碾茶(抹茶)、深蒸し茶加工での評価の実施
- ・粉末茶や抹茶を使ったレシピの開発